



# TAKE OFF press

TAKEO Future Frontier

【校是】 質実剛健 報恩感謝

佐賀県立武雄高等学校

校長通信 NO. 24 R6. 03. 15

文責 学校長 下村 昌弘

E-Mail [shimomura-masahiro@education.saga.jp](mailto:shimomura-masahiro@education.saga.jp)

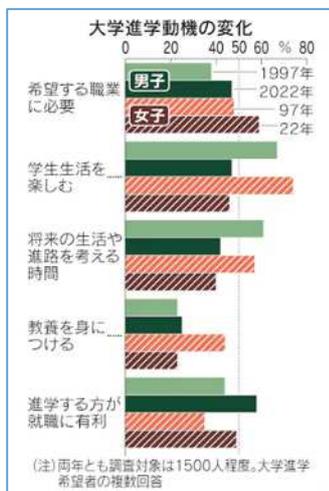


学校 HP

## 教養を求めよ ―モラトリアムだからこそ幅広い教養を―

“マージナルマン”。“モラトリアム”。高校一年の時に学びました。青年期は大人でも子どもでもない時期。マージナルマン(周辺人・境界人)として大人と子どもの世界を行き来する。それは迷いの季節で大人になるためのモラトリアム(猶予期間)でもある。高校生の皆さんは今まさにその時期にあります。

しかし、私が思春期を過ごした40年前と今の高校生の気質は大きく変わりました。そのことが学術的な言葉として先日報告されていましてのでその一部を紹介します。(尾嶋史章同志社大教授らによる研究。日経新聞2月20日掲載)



今の高校生は部活動に熱心な生徒が多く、遅刻や校則違反をするような生徒は少ないようです。コツコツ努力して仲間と協調し、進路を決める時、親や教師の意見を十分聞こうとする態度も強い。職業を早くから意識し、進学動機も「希望する職業に必要」や「進学するほうが就職に有利」といった考え方が強いようです。(左図)

これは素晴らしいことだと思います。進学理由に「就職」を挙げることに意見がないわけではありませんが、早期に目標を定めてまじめに勉強すべきであるという価値観が根底にあります。

間違いなく、こうしたまじめさは何かを成し遂げるための大きな熱量になります。天才と呼ばれるアスリートや棋士もまじめな努力を積み重ねたはずです。しかし、目標を早期に決定して合理的・効率的にそこに到達することだけを強く意識すると、高校時代・大学時代の価値を十分味わうことができないのも事実です。それはとてももったいないことだと思います。

“モラトリアム”とは社会に出る前の猶予期間のことです。この時期は試行錯誤・トライ&エラーを繰り返しながら自分の進むべき道を模索することに意味があります。そして、その営みは教養を身につけるという過程においてこそ、その価値が増すことを伝えたいと思います。教養を身につけるとはいろいろな経験をして自分を見つめ直すということです。

昨今の中高生の“まじめさ”はまさに強みです。私は皆さんを誠実なヤングジェントルマン(ジェンダーとしての表現の可否についてはここでは置くとして)、一人の大人として尊重しています。だからこそ、その“まじめさ”を土台に、より自律的な大人となるために、柔軟な姿勢と広い視野を育ててほしいと思っています。

今の世の中は不確実性が増し、予測困難な時代を生き抜く力の必要性が強調されています。そうした力を養うために、もちろん専門の勉強も大事です。そしてそれを生かすには教養が必要です。他ならぬ武雄高校生には私は強くそれを求めたいと思っています。

今年度の TAKE OFF press の最終号です。1年間のご愛読ありがとうございました。ご意見、ご感想を表題の枠内にあるアドレスまでいただけると励みになります。ではまた来年度!

## 映画は“社会を”“人を”語る —武雄で韓国映画祭—

3月6日夜、武雄市役所で黄仙惠さん（城西国際大学准教授）の『映画とはなにか』という講演を聞きました。常々、武雄にも映画館があればなあと感じていたところです。

講演の内容は日韓の映画比較をとおして虚構と現実の描かれ方について考えるといったものでした。具体的には『万引き家族』（日本）と『パラサイト』（韓国）の共通点や相違点を洗い出すことによって“韓国映画には社会が見える”、“日本の映画には人が見える”といった気づきがありました。どちらの作品も観たことがあったのでより実感を持って考えることができました。

映画はもちろんフィクション（虚構）なので、ある意味小説と似ています。それは現実の問題点を評論文のように意見をストレートに述べるのではなく、随筆のように現実生活そのものの中で感じたものとして語るのでもなく、映像をとおして人間存在の問題を一つの説（大説ではなく小説）として表現するところに、五感を刺激して迫る魅力があると思います。

3月20日には武雄市文化会館で韓国映画が無料で上映されるそうです。時間のある人は鑑賞してはどうでしょうか。（上のチラシは <https://sajotan.asahigakuen.ac.jp/>より）



## アンケート結果に培う“人間的自立” —調査結果は珠玉のメッセージ—

先月、学年末考査を挟んで「主体性・自主性及び人権意識を育む学校生活の確立に向けたアンケート調査」を行いました。ご協力ありがとうございました。提出してくれたすべての回答に目を通しました。とても感動しました。1枚1枚が珠玉の宝物です。

温かい感謝の言葉あり、鋭い批判の言葉あり、悲痛な要望の言葉あり、深い悩みの言葉あり、、、。いずれの言葉からも“自分たちは自立した人間になりたいのだ”という強いメッセージを感じました。

授業の在り方や進路指導の在り方、生活の決まりのことなど、いいところも、改善してもっとよくすべきところも、たくさんのお気づきを与えてくれたことに心から感謝します。

私は高校教育の最上位の目標を「人間的自立」だと考えています。それは一言で言うと“自分で考える”ことです。それを盤石なものとするためには①新たな意識、②確かな知識、③幅広い常識、④温かな良識、⑤鋭い見識をもつことが必要です。

皆さんからの意見に対してはすぐに対処できるもの、時間がかかるもの、いろいろありますが一緒に議論しながら武雄高校をいい学校にしていきたいと思えます。

早速ですが、まずは「頭髪規定に男・女別の表記は必要か、否か」について意見交換をしたいと思います。そして4月からは前生徒会が整理してくれた制服ネクタイ・リボン案件にも取り組んでいきましょう。



（閑人閑話）少し前の話になるが2月のある寒い日の朝、武雄の温泉街の後方の山に虹がかかった。▼校門で登校してきた生徒さんや車の窓を開けた先生から「ほら虹ですよ」と声をかけてもらった。うれしかった。▼黒井千次氏のエッセイ『どうすれば虹の根元に行けるか』を思い出した。そこにはハンス・カロットの『幼年時代』という小説が紹介されていて、氏はそこに先の問いに対して最も美しく完璧な答えを発見する。▼その答えはここでは明かさないほうがいだろう。気になる人は是非自力で探し当ててほしい。要は欲しい答えは自ら探し当てるか、さもなければ偶然に手に入るしかないのだ。▼本当は、人生の大方の答えは偶然でなければ手に入らないのかもしれない。子どもころや思春期に抱いた疑問や不思議への問いかけは大人（教師）によって答えられてはいけないのではないかと。自分自身が何十年もかけて追求め自分は何を探していたのかも忘れていた時に初めて謎を解くカギが与えられるものなのかも。▼問いを温め続ける覚悟と余裕を持ちたいものだ。（昌）

【当面の主な予定（3月後半）】  
17日（日）吹奏楽部定期演奏会  
19日（火）進路講演会（1・2年）  
22日（金）修了式  
※新年度の始業式は4月8日（月）